

# 経済活性化対策特別委員会会議記録

経済活性化対策特別委員長 井上明夫

## 1 日 時

令和6年6月14日（金） 午後13時00分から  
午後14時30分まで

## 2 場 所

第3委員会室

## 3 出席した委員の氏名

井上明夫、成迫健児、榊田貢、穴見憲昭、岡野涼子、中野哲朗、宮成公一郎、  
首藤健二郎、小川克己、御手洗朋宏、福崎智幸、二ノ宮健治、吉村哲彦（オンライン）、  
猿渡久子、三浦由紀

## 4 出席した委員外議員の氏名

佐藤之則

## 5 出席した執行部関係者の職・氏名

な し

## 6 出席した参考人の職・指名

The Japan Travel Company 株式会社  
代表取締役 クリスティ美保子、取締役会長 クリスティ ポール ジェラード

## 7 会議に付した事件の件名

別紙次第のとおり

## 8 会議の概要及び結果

（1）外国人観光客の誘客に向けた、農山漁村の魅力と観光需要を結びつけた観光商品の開発及び海外市場へのアプローチ・情報発信のあり方などについて、参考人から意見聴取を行った。

## 9 その他必要な事項

な し

## 10 担当書記

政策調査課調査広報班	主査	甲斐雅俊
政策調査課調査広報班	主事	徳丸花帆
議事課委員会班	主査	飛鷹真典
政策調査課調査広報班	主任	江川亜美

# 第7回経済活性化対策特別委員会

～食と観光、農林水産業のさらなる振興と人材の確保・育成～

日時：令和6年6月14日（金）13時00分～

場所：第3委員会室

## < 次 第 >

### 1 開 会

### 2 参考人からの意見聴取 13:00～14:30

The Japan Travel Company 株式会社

クリスティ美保子 代表取締役

クリスティ ポール ジェラード 取締役会長

### 3 その他

### 4 閉 会

## 会議の概要及び結果

**井上委員長** これより、第7回経済活性化対策特別委員会を開催します。

本日は、吉村委員がオンラインで出席しています。また、委員外議員として佐藤議員が出席しています。

早速ですが、本日は参考人としてThe Japan Travel Company（ザ・ジャパン・トラベル・カンパニー）株式会社（JTC）のクリスティ美保子代表取締役とクリスティ・ポール・ジェラード取締役会長に、オンラインにて御出席いただいています。

発言いただく前に、私どもより自己紹介を行います。

〔委員長・委員及び委員外議員自己紹介〕

**井上委員長** お二人には大変御多忙の中、御出席いただき誠にありがとうございます。

本日は、本委員会の検討テーマである、食と観光、農林水産業の更なる振興と人材の確保・育成に関して、外国人観光客の誘客に実際に取り組む立場から、農山漁村の魅力をいかした観光商品の開発や情報発信のあり方、私どもへの御提言等をお聞かせいただきたいと思います。

本日は、どうぞよろしくお願ひします。

これより、参考人のお二人に発言をお願いします。なお、お二人にはおおむね60分程度お話しくださいようお願いしています。一通り説明が終わった後、30分程度、全体を通じて意見交換を行うことを予定しています。

それでは、よろしくお願ひします。

**クリスティ美保子代表取締役** 食と観光、農林水産業のさらなる振興と人材の確保・育成ということで、私たちザ・ジャパン・トラベル・カンパニーの取組として、取締役のクリスティポールと代表取締役のクリスティ美保子から話をします。

本日は、どうぞよろしくお願ひします。まず、トピックの一览としてここに書かれている順番で、ざっくりと私たちの活動について話ができたらと思っています。

まずは、私たちの自己紹介を簡単にさせていただきます。私は現在、日本法人ザ・ジャパン・トラベル・カンパニー株式会社の代表取締役をしています。もともと私は神奈川県茅ヶ崎市で生まれ育ち、現在は4人の男の子の母親をしています。そして、関東で明治学院大学文学部を卒業後、研究機関で働いた後に専門学校へ留学をするため渡英しました。そこで2008年にポールと出会い、結婚を機に杵築市の旧大田村エリアへと移住することになりました。移住を機に、香港法人ですがWalk Japan（ウォーク・ジャパン）という私たちの母体の旅行会社の業務に従事することになり、2010年にザ・ジャパン・トラベル・カンパニーを設立しました。ウォーク・ジャパンはアカデミックな起こりで、香港大学で教鞭を執っている先生たちによって始まりましたが、日本に拠点がある方がいいということで、日本で日本法人を立ち上げたという背景があります。そして、私はコロナ渦の2021年に代表取締役へ就任しました。

現在は4人の子育てをする傍ら、ザ・ジャパン・トラベル・カンパニーの日々の運営を担っており、そして人間好きが高じて、上智大学でグリーンケア、スピリチュアルケアを学んでいます。また、月に一度のペースですが、OABの、もっと！という番組で大分に関することとお話するコメンテーターもしています。

**ポールクリスティ取締役会長** 私は出身がイギリスで、ロンドン大学経済学部を卒業後、同大学へ戻って東洋アフリカ研究学院にて日本語を勉強し始めました。そして、1987年に初めて来日し、川崎市でホームステイをしました。その後、イギリスに戻ってNHKやTBSの報道番組の制作などに携わり、ロンドン支局の方や日本の方と仕事をさせていただきました。

1997年にはウォーク・ジャパンと出会い、ツアーガイドとなって2002年まではテレビとガイドの仕事の両立させながらやってきまし

た。そして、2002年に憧れの田舎暮らしを実現するため、また、40歳までに移住したいと感じていたため大田へ移住しました。当時はまだ大田村で、まだ平成の大合併の前だったので、村としての地域と今の杵築市の一つとしての地域の両方を経験して、2010年にザ・ジャパン・トラベル・カンパニーを設立しました。

ウォーク・ジャパンは、今から32年前の1992年にできた会社です。さきほど妻が申したように、香港大学から出てきた企業なので香港が本社で、ザ・ジャパン・トラベル・カンパニーは日本の手配業務などに携わっており、この利用者に対し国内ツアーを提供しています。また、私がここに移住してから22年余りが経ちましたが、移住当初から友達の農家の手伝いなどをしており、2015年には農業委員会から正式に農家として認めていただきました。まだ存在は小さいですが、2020年に農業法人も設立しています。

それと、今年の4月に立命館大学ビジネススクール大学院経営管理研究所の客員教員に任命いただきました。これから学生には勉強のために来てもらうこととなります。また、ウィリアム・アダムス——日本の名前は三浦按針ですが、彼は大分県と非常に深い関わりがあり、イギリス人として日本に初めてやってきた人です。ウィリアム・アダムス・クラブというものがありますが、私はその理事長も務めています。ほかには10年前からクールジャパン広報大使などもしています。

ウォーク・ジャパンは香港大学で誕生し、その当時の創立者2人が自分の弟子たちを日本に連れてきて、江戸時代の五街道の一つである中山道を歩きながら勉強させたことがきっかけですが、今は全国的にツアーを展開しており、企画、造成、販売、実施までやっています。PR業者と仕事をするときにはBusiness to Business (B to B) もありますが、基本的にはBusiness to Customer (B to C) で旅行産業に参入しています。この分野では、特に長期滞在のウォーキングツアーですが、我々が先立ってやって

いることに間違いありません。

**クリスティ美保子代表取締役** ザ・ジャパン・トラベル・カンパニー株式会社についてですが、ウォーク・ジャパンが日本全国でツアーを展開する以上、ランドオペレーター的な動きを取る会社が必要だという理由から、2010年にウォーク・ジャパンのツアー専属の予約代行会社として設立しました。そして、2021年から私が代表を務めています。本社はずっと杵築市大田で、大田の中に二つの拠点あり、1か所は大田の中の俣水という大分空港に近いエリアにあります。17年間空き家だった古民家を改築して、とても個性的な建物のオフィスになっています。そして今、私たちがいるのが石丸というエリアで駐在所が近いですが、やはり古民家を改築して、とても心地よい空間のオフィスにしています。

東京にも支社があります。コロナによりインバウンド業務も非常に影響を受けたので一旦、東京の事務所は畳んでいましたが、現在は東京の支社も再開しています。東京の支社がありつつも、いつも大田を本拠地としてきたことが私たちにとってのポリシーかなと感じています。なお、東京にもスタッフがおり、リモート勤務をしているスタッフも含め、現在、JTCの日本法人には45人のスタッフがいます。

業務内容としては予約代行業務——ホテル、宿泊施設、交通機関、レストランなどの手配をウォーク・ジャパンのために行っています。また、農林業などを中心に地域活性化事業としてコミュニティプロジェクトというものを行っています。そこは後ほど詳しく話しますが、里山の再生とか多様性のある森をつくり出す活動のほかに、行政などから頼まれて視察などを含むコンサルティング業務も行っています。

**ポールクリスティ取締役会長** ウォーク・ジャパンのツアーがどのような形になっているのか説明します。

ガイド付きのツアーとガイドなしのツアーの両方を提供しており、それに国際修学旅行もしています。ちょうど今、今月だけで違う学校を対象に4本ぐらいのツアーを行う予定で、今は

修学旅行のツアーが多くなっている時期です。ツアーはB to B、今伸びているのは全部B to Cですが、一つB to BのツアーなのがアメリカNPO法人のツアーで、日本国内全てのツアーは我々が企画して運営しますが、向こうが販売したりPRします。ツアーの平均日数は8日間から10日間で、これは日本国内だと長期滞在にあたります。ツアー人数は基本的には12人限定で、それにガイドが1人付いて合計13人。これが非常に重要なポイントの一つです。大体1日当たりのツアー代金は5万5千円から8万円になります。

ツアーでは、基本的には歩きながら日本を散策します。日本の本質、日本という国を探っていくわけですが、知られざる日本を紹介、案内、解説します。一緒に地元の社会に忍び込むんです。歩くのは非常にやりやすい形で、貸切バスやオートバイだとできない、自転車もちょっと難しい。歩くことで、やっぱり地元の人たちとの交流がかなり図られます。

テーマの多様性ですが、例えば中山道が歴史的な街道ですけれども、江戸時代の話などにとどまらず、今の日本はどんな社会なのか、日本人は礼儀正しく接してくれるのか、日本の政治がどんなものなのか、今の岸田総理はどんな方なのか、教育現場はどんな感じなのかと、多岐にわたっているんな話題に触れていくわけです。もちろん、人によっては日本イコール東京か京都というイメージが強いですが、実は日本は非常に多様な国で、南北3千キロメートルぐらいあって、かなり多くの島々で形成する国で1万ぐらいの島がある。山を超えたら全然違った谷があるとか、それによって風情が非常に富んでいる国だとよく分かっていただけのわけです。バランスのよい行程というのは、食事に例えれば、一つおいしいものをたくさん食べるのではなくて少しずつつまみながら、ちょうどお腹がもたれないような感じで行程をつくと。消化しやすい内容だということです。

歩くのは何がいいかというと、やっぱり人間はそれが非常にふさわしい行動だと我々は思っていて、走ることも飛ぶこともできるけれども、

ちょっと慣れたら1日20キロメートルとか25キロメートルは歩けるわけです。ウォーク・ジャパンのお客様は、基本的に歩くことが好きで、学ぶことを楽しむ知的な好奇心が強く、大体40代から70代半ばの富裕層だと考えていいと思います。

ツアーについては、大分県だけじゃないんです。発祥地は中山道ですが、北海道から西表まで、日本全国の各地でツアーを展開してきました。（「全部で現在37種類の定期ツアーがあります」と言う者あり）ウォーク・ジャパンができた当時、弊社以外はどこも歩いていない時代でした。実は今、特に長野県の県南の木曾谷ですが、大勢の外国人が行っていて、日本人も行くようになったんです。中山道ツアーについてですが、10泊11日で京都からずっと中山道をたどって東京の日本橋に向かうというものです。全長は544キロメートルありますが、我々のツアーでは120キロメートルから130キロメートルを我々と一緒に歩きます。

九州のツアーに関して、私が2002年に国東半島に移住して、すぐさま国東トレックをつくりました。観光シーズンはずっと好評で、これは9泊10日の長期滞在で国東半島内を一緒に散策します。地元の人たちにこの話をしたら、国東半島内で10日間どうするんだいという質問をされたことがあります。参加者の皆さんには大満足していただいています。また、国東湯布院ウォークというツアーもあって、これはちょっとゆっくりとしたペースで、余りアップダウンも激しくないコースを希望する方のために設けました。大分温泉トレイル——国東を離れて耶馬溪、日田、九重、竹田、別府を回ります。また、温泉ガストロノミーの企画を2019年に始めましたが、これはANAと手を組んでつくりました。全て非常に好評ですが、これも好評で、もちろんおんせん県おおいたにしかできないので、9割ぐらいは大分県内で実施しています。

これらは、例えば名所へ行って記念写真を撮って、また大型バスに乗って次の名所を回っていくという形を全然取っていません。我々は、

もともと大学から出てきた企業なので、やっぱり日本という国を分かってほしい、日本人を知ってほしい、よりよく触れてほしい。ツアーではいろんな取組をしますが、なるべく日本に対して関心を持っていただく工夫を凝らしています。ツアーではいろんな情報を提供する、若しくは話合う、お客様の国と日本の国を比較する話なども多くあります。また、皆さんには休みを取っていただいているので、楽しみながら、笑い声が多くある企画ばかりです。あとは効率、やはり安くはありませんが、時間とお金、よりよいバックアップをしてあげる工夫ですが、簡単に見えるけど簡単にできるわけではありません。

資料には何人かの同僚の写真が並んでいます。ツアーの要はやっぱりガイドですね。彼らはツアーリーダーですが、資格だけでは不十分。やっぱりそれ以外の性格とか本人が好奇心があるか、人との関わりが上手か、いろいろあるんですが、我々はツアーリーダーの育成にかなりの時間とお金を費やしています。

役員ですが、私もツアーリーダーとして会社をやり出したんですけども、左側の眼鏡をかけているのは同僚で、彼はもともとツアーリーダーで今、ウォーク・ジャパンの社長として日々の経営をしてもらっています。隣の女性には今、かなり責任のある席に座ってもらっています。

会社は非常に多国籍で、もちろん日本人はいるし、香港、アメリカ、イギリス、イタリア、オーストラリア、カナダ、ドイツ、フランス、リトアニアなど結構います。いろんな職業をこなしてツアーリーダーとして付き合ってもらっていますが、国際金融機関とか、去年からもともと日本銀行出身の方、国際機関のIMFの方にも付き合ってもらっています。あと、有機農家とか専業主婦、先生とかメディア関係とか修験者もいるし、富士山ガイドなどもあります。いろんな職業の人たちに、一緒に付き合ってもらっています。

さきほど申したように、資格だけでは不十分で、資格は大事ですが、それ以外の人間に備わ

っている能力と一緒に磨いていかなきゃいけない。なので、我々は地元の人たちとの交流を生む工夫をしています。日本の一番の魅力は日本人です。食材、食料、風景、文化なども非常に素晴らしいけれども、その中では日本人が一番だと我々は思っています。ツアーでは、なるべく地元経営の宿やレストランなどを利用します。なぜかという、我々が落としていくお金は、地元ではもっと循環がよくて、例えば宿の本社が東京かロンドン、若しくはニューヨークだったら、いきなり2割、3割が抜かれるわけですが、地元であればほぼ100%、地元でお金を使っていただくと、その方たちがその分潤っていくわけです。

えっちゃんの話です。ちょっと小柄なおばさんですが私の親友で、たまたま私が移住して最初に買った土地は、えっちゃんの土地に囲まれています。今では、えっちゃんがこの地方では看板娘だと言ってもおかしくないぐらい、体が小さい割には大きな存在なんです。ここに来るツアーのほとんどで、えっちゃんの家に戻ります。ごく普通の農家の家庭ですが、去年だけでも600人ぐらいの外国人がえっちゃんと会話を交わしたり、お茶を飲みながら油を売っています。修学旅行でも、よくえっちゃんのところに戻ります。

あとはPR方法。私もメディア関係者でしたが、社長のルーもメディア関係者で、メディアのことをよく把握しています。我々は、世界各地のPR会社を活用してかなり自発的に、もちろん弊社の話ですが、日本各地の話を海外に向けてうまい具合にアピールしています。大体週に1回、2回ぐらいとか、英語圏の各国の名門雑誌や新聞などに弊社や日本、その中では大分県も取り上げていただいています。日本国内でもかなり注目されてきました。後ほどもう少し触れると思います。あと、WebサイトやSNSの活用はかなり上手だと我々は思っています。これがつい最近の記事の例のいくつかですが、これが今年の5月、Explore Travel (エクスプロアトラベル)、オースト

ラリアですね。ここに国東トレックを取り上げていただき、やっぱり効果的で、記者は非常に有名なライターですが、大きく貢献していただきました。これは香港の名門の雑誌ですが、国東湯布院の企画を取り上げていただきました。また、カナダでは温泉ガストロノミーの大分県、熊本県の企画を取り上げていただいて、これがイギリスのThe Telegraph (ザ・テレグラフ) ですが、これも国東トレックの記事です。

これは去年の8月ですが、日本の英字新聞のThe Japan Times (ザ・ジャパン・タイムス) に、かなり大きく我々の活動を取り上げていただきました。これは中東のAl Jazeera (アル・ジャジーラ) ですが、これは大体雑誌でも新聞でもホームページもあって、世界中の方が閲覧できるようになっています。日本では今、京都や奈良が観光客でにぎわい過ぎてちょっと大変ですが、国東半島などウォーク・ジャパンが行っているところは外国人がまばら、地元の人たちとちゃんと交流できると取り上げていただいている。これは、名門のNational Geographic (ナショナル・ジオグラフィック) で、弊社の話を全般的に取り上げていただいている。持続可能な観光の話です。これも御存じだと思いますが、去年の5月に人間発見という日本経済新聞の夕刊で、かなり名門のコラムですが5回連続で取り上げていただいた記事です。たまたま私だったんですよ。えっちゃんとの写真となっています。このように、国内外のメディア、日本経済新聞、NHKワールドなど全部名門のところですが、我々の活動を取り上げていただきました。

それと、9年ぐらい前にツーリズムおおいから依頼を受けて、大分を取り上げている観光のホームページの英語版を制作させていただきました。去年に作業が終了して、まだ存在していますが、これはかなり評判となって、隣の鹿児島県の観光課から何か苦情の電話があったそうです。何でこんなにいい英語のホームページがあるのか、僕たち困っているんですよと連絡

があったそうです。

次に、コミュニティプロジェクトについてですが、これは彼女の方から。

**クリスティ美保子代表取締役** コミュニティプロジェクトのことが、私たちの話の中からちよくちよく出てきたと思いますが、それが一体どういうものなのかという点に触れながらお話しします。

地域活性化の一つの見本になることとして、私たちがここで観光業をできるのは、やはり地元の人たちと手を組んでの協力があってこそという思いもあります。日本への揺るがない思いを示すためにも、この活動が非常に大切な意味を持っています。そして、やはり社会の責任を果たすということ、活動を付加価値としていかす。地方に潜んでいる魅力を引き出して地方を活性化させるという意味で、このコミュニティプロジェクトに私たちは大きな意味と目的を持っています。

コミュニティプロジェクトの根幹には当然ながら農業があり、やはり皆さんも御存じのとおり、大分県だけでなく全国的に高齢化が進んでおり、農業は特に担い手の確保が非常に難しく、大田エリアでも人口減少は本当に逼迫した問題です。米、小麦、しいたけを、えっちゃんをはじめ地域の農家の皆さんと手を組んで、それをツアーのコンテンツに、一緒に体験する。学生たちは、特に体験をするという意味で、昨日かな、アメリカのジョージア州から来た21人の学生たちと先生たちが、えっちゃんや私たちのスタッフと共に田植えをしました。いい天気恵まれて、面白い体験になったんじゃないかなと思っています。また、えっちゃんはずっと長くしいたけ農家でもあるので、しいたけの作業も子どもたち、学生たちに手伝ってもらったりもします。ただ、ツアーに来る時期によってどういう作業ができるのかは変わってくるので、そのときにできるホダ木の準備だったり、若しくは駒打ちそのものだったり、すごくラッキーなときはしいたけの収穫までできたことも過去にはありました。

空き家の再生も、さきほど私たちのオフィス

の紹介をした際に、大田にある2か所のオフィスも、もともと空き家だったという話をしたんですが、蝙蝠亭と呼んでいる本店や、私たちがいる石丸のオフィスから目と鼻の先にある自宅も空き家バンクを介して紹介してもらった空き家でした。また、空き家をゲストハウスと呼んでおり、もともとお客様たちが宿泊したり、中長期的にここがいい場所だということを分かってもらうために、宿泊してもらう場所も空き家でした。

そして、景観保全も私たちは非常に大切にしている、社会の中でも当然大切なことではあるんですが、私たちがツアー会社である以上、やはりお客様を呼んで原風景のような美しい日本の風景を楽しんでもらうために、それをなくさないよう、保全できるようにということで、ウォーク・ジャパンがちょうど30周年目を迎えた数年前に、私たちは個人として山を購入し、その山の一部、大部分が植林だからその部分をもうちょっと多様性のある森にということで、雑木林を作る試みなども、社内だけではなくお客様たちにも協力してもらいながらしています。

そして、英語教室はずっと温めてきたプロジェクトですが、実際にコロナなども経て、形になったのは去年からです。南アフリカから英語の先生を呼んで今、うちの子どもたちも含む地域の子どもたちやスタッフの子どもたちに英語をツールとして、持続可能な社会、そして自然の生態系について教えています。また、コンポスト作りとか、実際にコンポストを自分たちで作ってみたいとか、私たちの会社のスタッフに対してコンポストのことを啓もうしてくれるようなプロジェクトをしたりとか、そういう試みも放課後の時間などに行っています。今後、地域のこども園と、その次のステップでは小学生が通う放課後クラブにも出前授業のような形で、いろいろ自然に関することを英語で学ぶ試みもスタートするところです。

地域交流という意味では、別府市にはイベントのスポンサーのスリランカのコミュニティーなどがあり、クリケットが盛んだったりするんですね。ウォーク・ジャパンはイギリスという

ことで、クリケットに非常に熱心な人たちが多い会社だから、そのクリケット大会を去年、APUで開けるように、ウォーク・ジャパンもそこにスポンサーとして資金提供して盛り上げました。また、APUの卒業生で本当に大分県に貢献して頑張っているスリランカ人をはじめ、アジアの国の卒業生たちがいることも実感したんですが、その人たちとの交流や地域でのクリスマス会、バーベキューなどを開いて、あとは健康に関するサロンなども地域の医療従事者などと手を組んで行ったりもしています。そして、杵築市のサイクリンググループのメンバー及びスポンサーにということで、本当に最近、今月の話ですが、チャリティーライドということで、ニコールという元気なアメリカ人のスタッフが自転車ごと杵築駅から静岡県に向かって、静岡県から中山道を経由して長野県まで行くというイベントにも参加しました。これも弊社がスポンサーシップを一部提供しつつ、養護施設の子どもたちの活動を豊かにということでNPOにお金が行くような、そんなイベントにも会社として参加しています。

**ポールクリスティ取締役会長** まだ確定ではありませんが、来年、大分県内で同じように自転車のイベントを実施する可能性が高まってきました。

**クリスティ美保子代表取締役** 大分県、特に国東半島の地形は自転車のライドに非常に適していると、ポールも長野県を走ってみてさらに実感したということで、それをいかしていきたいなと私も思っています。

**ポールクリスティ取締役会長** 資料右側のテントの写真ですが、私が国東市へ来て初めて住んだところですよ。えっちゃんの土地のそばですが、最初買った土地にテントを張って、そこで数週間ぐらい過ごしました。

なぜ大田に強い意思を持っているかということ、実は交通の便がいいんですよ。大分空港から近く、車なら大分市よりもずっと、これからホーバークラフトが出港したら同じぐらいになるんですけど、30分ぐらいで大分空港へ行けるとことで、ソニックも杵築駅や宇佐駅で停まるこ



ともあって列車の便も悪くありません。私は日本全国をよく回っていますが、国東半島はその面では遅れてないと実感しています。あとは、我々はものすごくこの地域に対する愛情があります。また、我々の会社は日本国内だけではなく海外でもかなり知名度が高く、ボランティアたちもよく来ています。今年だけで既に3、4人ぐらいに力を貸していただいています。資料右側の女性は駒打ちの手伝いをしているところです。

今度、立命館大学ビジネススクールの客員教員になりました。その関係で、日本全国の生徒たちがこちらに来ますが、それが今度は9月の2週目ぐらいかな、3日間ぐらいの短い滞在ですが来てもらいます。一度来てもらえれば再び来る人も少なくない気がします。

田舎には多くの魅力があって、多くの人たちに来てもらっています。この写真の中には、ニューヨーク住まいのイギリス人、南アフリカの御夫婦、オーストラリアの方もいます。これが去年の8月ですが、在日英国大使御夫妻、ジュリアという女性が大使で、日本のイギリス人大使として初めての女性ですが、御主人が付いてきているというか、日本ではちょっとあり得ない形で来ていただきました。

旅の目的の変化について、基本的に個人旅行者が多くなっていて、それは大分県にはプラスになっていると思います。もちろん大きな施設もあるんですけど、基本的に小ぢんまりとした小さな宿、若しくは民泊などが非常に潤っているはずなんです。また、地元の人たちと交流を図っていききたいというニーズがどんどん高まっているのと、今、特に西洋人で、もう既に世界中を回ってきたから、やっぱりどこか家を持って第二の故郷つくりたい、感じたいという方が多くいます。

地方創生について、我々は旅行会社ですが地方創生専門会社だと考えてもいいと思います。U・Iターンをかなり促進していて、隣の彼女は国東市出身で、20年余り京都の旅行会社に勤めていましたが、弊社のことを知って戻ってきました。私の秘書をしています。移住者は日

本人だけではなくて、外国人も結構多くなりました。大田に住んでいる外国人は少ないですが、杵築市、日出町、別府市、国東市、宇佐市などにいます。もちろんツアーをして、そこで通っているところはお金を確実に落としています。その面ではかなり貢献しているし、大田村には農業と林業、あとは老人ホーム二つと杵築市の庁舎しかありません。弊社は全然ほかにはない職種で、比較的高めの給料でもあるから、かなりの刺激を与えているはずです。

**クリスティ美保子代表取締役** 地方創生ということで、私たちも大田で会社を営んだり、大田を拠点に生活する上で本当に超高齢化、日本全国どこもそうですが、大田のような場所は特にそうで、農業などの後継者不足や、高齢者が割合として人数的にも多い中、高齢者が当然ながら慣れたものが安心だから、ライフスタイルを変えたがらないということもあって、次世代のものや移住者の意見が通りにくい環境があると感じています。インターネット環境においても、これからの時代、本当に水道水のように必要なものだと私たちは認識していますが、杵築市の中でもやはり山香エリア、大田エリアには光のインターネットが通っていない現状があったりですね。

また、国としてはやはり農地を農地として維持して、そこを活用できる状態に保ちたいと、結構助成金などもそこに入れています。ただ、高齢化で草刈りが当然追い付かないし、人手がないので農薬とか除草剤に頼ることが増えていて、自分が手が回らないからと地域の人にはそれはしようがないとか、苦しい状況です。私たちはそれを手伝えない身だからすごく苦しいのですが、その弊害として景観が甚だしく赤茶色になってしまう土地が増えたり……

**ポールクリスティ取締役会長** お客様はそれに気付いているし、特にアメリカ人が敏感なんですよね。もう一つ、生活水が地下水なんです。そこへ浸透していくおそれが非常に高く、このままいくと、移住者は好まないし期待はできない。移住者はどこでも行けるわけなんですけれども、そういう除草剤が多く使われている地

方はやっぱり避けようとする人が少なくない。もう一つ、我々もここにせっかくいいものをつくったのに、やっぱり子どもを横に置いて、自分一人だったら我慢するけれども子どもがいるんですよ。そうすると、どこか別のところへ行こうかと検討に入る寸前ですよね。

**クリスティ美保子代表取締役** 地域も努力している部分もありますが、どうしてもその点で、未来に向けて子どもたちのこれからの可能性とか、そういうものにプライオリティーを置くような形でみんなで考えられたらなと、常にひしひしと感じながら生活している状況です。

**ポールクリスティ取締役会長** やっぱり信用できない農家もいます。すごくまいっている人たちもいると感じています。ある人は全然第三者の話を聞こうとしないんですよ。自分さえよければあとはどうでもいいと思っている人もいます。

**クリスティ美保子代表取締役** 私もいろいろ考えたり、地域の農家と話す中で、助成金の在り方とか背景にはいろいろあるようです。ただ、農地をいい形で維持することや、やはり高齢者もきちんと住みながら未来に向けて子どもたちの健康とか、移住者にとって魅力的な場所であり続けるという要因とか、そこを妥協しない形でバランスよく、それぞれのプライオリティーをちゃんと酌み取った形で、次によいものを残していけるようにという考え方は大切だと感じています。

特にその大田・山香地区はさきほど申したとおり、光のインターネット普及が不十分で、私たちも業務をする上で非常に困難を来した時期がありました。それを杵築市に強く訴えかけたところ、非常に理解を示し、協力してくれる人がいました。私たちは実費を払いながら、庁舎から特別に引いてもらうという措置を取っています。でも、私たちだけでは駄目なので、法人全般もそれができるようにと声を上げたところ、そうしてくれました。ただ、法人ではないと駄目だとすると、個人事業主やフリーランサーが、今だったら例えばリモートワークとかワーケーションという形で試してここに住みたいと思う

ときに、やっぱりインターネットの存在は、これからの生活を定める意味でも非常に大きい。あとは医療Ma a S、車で移動して行く医療は未来においても特に山間部などには非常に大切なので、インターネットの導入は都市部だけでなく、どの場所でも非常に必要だと思っているので、これは強く私たちが……

**ポールクリスティ取締役会長** 杵築市営の山香病院の院長先生も、やっぱりインターネットがないのは高齢者を診る障壁となっていると言っています。ちょっと不公平なところもあって、旧杵築市ではインターネットを整備していますが、大田地区、山香地区は後回しになっている。それだけではありませんが、杵築市に対して僕はかなり憤りを感じています。

**クリスティ美保子代表取締役** 除草剤の話はさきほど触れましたが、やはり美しい原風景の破壊は私たちの観光業においても非常に大きなマイナス要因になってしまうということ。また、水質汚染に関しては科学的なことなので数値とか分かりませんが、やはり海外のメディアのニュースなどを読んでみると非常に懸念を含むことだなと思います。それが本当に意識のない状態で汚されてしまうことは、健康的な生活や非常に美しい自然を求める方たちを遠ざけてしまう要因になってしまうので、非常にもったいないと思っています。住民や私たちの健康被害への恐怖もあるし、私たちが自信を持ってここはいい場所だと人を呼ぶときに、非常にそこがネガティブな要因に働いてしまう。日本はこんなふうになっているのかと、海外からの訪問者たちをがっかりさせる要因になってしまいます。

地域を活性化するための鍵としては、やはりまずは私たちが地域の人たち、地域の魅力を知ることです。地方ならではの原風景を意識して守っていかないと、無意識のうちになくなってしまふのは本当に簡単で、戻すことはなかなかできないので、そこは大切だと思います。それぞれの特色、個性、そこにしかないもの、こんなのでいいのかと地域の人は言いますが、それこそがかけがえのない魅力で個性なので、それを広域で連携を取りながらいかにしていく、

残していく。残すことがいかに大変で大切なことか、私も最近考えています。慣習などにとらわれず、無理のない形で継承していくこともすごく大切。そして、時代は逆戻りはしないので、変化を上手に受け入れて、それをよい形でいかしていく柔軟さは大切だと思います。そして移住者、訪問者が来やすい環境づくりが大事なので対話はやっぱりあって、当然、移住者や訪問者がみんな正しいわけではないので、そこでやっぱり対話の場を持って、未来に向けてお互い変わる気持ちを持って受け入れていくことが大切です。そして、子どもの将来を見据えた長期的な活動、働きかけは本当にすごく大切で、ここが本当にキーワードとなって人口を増やしていったりとか、魅力的なものを発信していけるのかなと思っています。

私たちのお客様は、ほぼ全員が富裕層ですが、富裕層の人たちが思ってもやまない、お金を費やしてもやまないのは、よりよい環境や健康です。お金では買えないものですが、そこを意識した環境づくり、地域づくりが観光の意味でも移住者を増やすという意味でも、非常に大きな要因であると、本当に共通で認識していきたいと思います。

あと、弊社の取組の循環として、ポールはよく一石十鳥以上という言葉を使いますが、このようなサイクルで成り立っていて、もちろん私たちは観光業を主軸とした旅行業をしているものですが、そこから雇用増加、そして移住の実現、空き家の再生、第三者の誘致、交流の活性化、教育補填、環境保全、維持可能な農業、山の再生、それが景観の美しさとなって観光業につながるという、このサイクルを繰り返せば繰り返すほど観光業が潤い、人が地域に流れてくるという相乗効果を持つと思っています。

多岐にわたる話でしたが、以上で説明を終わります。御清聴ありがとうございました。（拍手）

**井上委員長** ありがとうございました。非常に多岐にわたるいろんな御説明をありがとうございました。

それでは、これより意見交換に入ります。委

員の皆さんで御発言されたい方がどなたかいれば、お願いします。

**穴見委員** ありがとうございました。

1点お聞きしたいのが、人材確保とか人材育成に関するところですが、前半の方でツアーリーダーの話が出てきました。資格だけあっても駄目で、いろんな能力が必要だという話でしたが、そういった方を確保するにあたって、そもそもそういうスキルを持った人を集めているのか、それとも雇った後に何かしら指導や研修とかでそういった能力を養っていくのか、どちらなのか教えていただければと思います。

**ポールクリスティ取締役会長** 相手によります。もちろん経験者もいるし未経験者もいます。弊社内のいろんな仕組みがあって我々が判断して、それに通ったら、まずは見習いの形でツアーに参加してもらうことになります。大体9割ぐらいは成功し、やがてツアーリーダーとして付き合い合っていただくことになりますが、そうでもない人たちもいます。日本人でも外国人でも、ちょっと性格的に合っていないというのが大体の原因です。弊社は人材確保には特に困っていません。なぜかというと、会社自体は大きくありませんが、大きな存在なんです。憧れの会社なんです。間違いなく日本では高い水準を設定した企業なんです。信じ難いかもしれない、何で外国人にそんなことが言えるのかと、日本人の方が分かっているぞと。

また、日本人は旅行の環境に対し、全然違った意識を持っていて、それは西洋に対してそのままでは適用できないことが多くあります。部分的には問題ありませんが、総合的には適用できない点が多くあります。我々がそれを全部埋めて、日本人とか外国人のよさを合わせた感じで、まずは育成に取り組んでいるし、会社全体それを踏まえて運営していますが、この同僚の中でも、事務的な仕事をしてもらう同僚たちを確保するのも別にそれほど難しいと思っていない。今、日本では全国的な問題ですが、我々は今のところ足りているかな。今日も……（「朝に面接をしました」と言う者あり）面接があったんですが、要するに我々はよりよい企画、よ

りよいガイド、ツアーリーダーを提供しているだけではなくて、一人でも多くの人たちが勤めたいと思う会社をつくりました。それが非常に重要だと思うんです。

今、ここだと両方の事務所で30人ぐらいの同僚たちに勤務していただいています。平均年齢が35歳ぐらい。周辺は平均年齢が80歳前後ぐらいかなと思います。

**穴見委員** あと、もう一つ関連で、ちょっと込み入ったことをお聞きします。やはりインセンティブの一つとして報酬があると思うんですが、ツアーリーダーたちの報酬が年齢の平均より上なのか下なのか、また同じぐらいなのか、答えられる範囲で教えていただけたらと思います。

**ポールクリスティ取締役会長** ほかとはちょっと比較できませんが、1日の相場は2万5千円からです。例えば、かなり長い間付き合っているツアーリーダーか、若しくは年間でかなりの日数に付き合ってもらっているツアーリーダーに対しては、日当に上乘せする形になっています。それと、会社の業績さえよければ仕事をしていただいた日数に対するボーナスも支給しています。ツアーリーダーたちは、結構生計が成り立っていると思います。

もう一つ、大体半年前からどのツアーを担当するのかを決めています。急にツアーに対応してもらおうときもあります。基本的にはずっと前から自分の担当のツアーが分かっている、そうすると自分の私生活もちゃんと計画的に進めていけるんです。そこは非常に重要だと思います。日本だと、2週間弱ぐらいの余裕しか与えられていないところが多くある気がします。

**クリスティ美保子代表取締役** ちょっと情報の整理で、今、ツアーリーダーの報酬の話だと認識しています。ツアーリーダーは一応、香港法人のウォーク・ジャパンに所属しており、日本ではフリーランサーとか個人事業主にあたります。

**ポールクリスティ取締役会長** もう一つ、今、私は会長ですが、会長の妻だからと妻に対し何か思っている第三者がいると思いますが、実はいろんな能力を備えていて、今いい仕事をして

くれているわけです。役員については、話の中で出ましたが基本的に一緒に仕事をしている人、それは正社員かパートか、若しくはツアーリーダー、ツアーリーダーの8割ぐらいがフリーランサーたちですが、そこからお願いします。全然違ったところからいきなり責任のある席に座らせることは今のところありません。あとは男女や国籍問わず、よりよい仕事をしてくれるなら、よりよい協力体制に力を注いでくれるなら、もちろん僕らは支えるし、支えてくれれば誰でも未来がある、これ以上あると。会社はずっと拡大していて、社員の数や客数もコロナ前よりも大きくなっています。

また、ちょっと追加ですが、去年は5千人ぐらいの方にツアーに参加していただきました。余り数は多くないように聞こえるかもしれませんが、平均日数から換算すると、年間で10泊弱ぐらい、5万人泊弱ぐらいの規模になります。そこから考えると、やっぱりこれは小さな存在でもないと思うんです。

**二ノ宮委員** 今日はありがとうございました。私は湯布院がある由布市に住んでいて、農業をしながら県議会議員をしています。

この特別委員会の設置の目的が、御存じのように農業、農村がすごいスピードで疲弊をしていて、それは若者や後継者不足等が拍車をかけていると思うんです。それは、今の農業で生計を立てることがなかなかできないことが根底にあるのではないかということで今回、この特別委員会の中で、今元気な観光の力を借りて、何とか農業を元気にすることができないかというテーマで話し合いをしています。

本日、御社の話を聞いて少し希望が出てきたと言いますか、私たちが特別委員会で求めていることがここにあるのかなと。そのうちのひとつがあるのかなという感じがしました。ここに取組の循環とありますが、実際に移住してきた人も含めて、農村とか農家にどのように利益還元というか、そういうものができるんだろうかと考えています。移住者も、なかなか農業では生計が難しいんじゃないかという、そのジレンマを感じながら農村や農業のことをいつも考え

ているんですが、その辺で何かあれば、是非教えていただきたい。

**ポールクリスティ取締役会長** おっしゃるとおりだと思います。私はこの22年間、この地域の衰退を見守ってきましたが、我々がそれに対抗するように、まずはお客様だけではなくて、例えば英国大使などに来てもらうようにしており、その受け皿を作っています。

一つの空き家をゲストハウスと呼んでいますが、いつもそこの上質な空間に宿泊してもらっていて、ここから歩いて5分ぐらいのところですよ。まず、この田舎の様子をたっぷりと味わっていただく、私は日本全国を飛び回っていますが、大分県ほどいろんな資源が揃っているところはなかなかほかにはありません。すごくすばらしい地方だと思うんです。縁があって大分県民になれてうれしいなと日々思っています。農業は日本だけの問題ではなく、母国のイギリスもやっぱり農家が非常に苦しい立場に立たされていますが、少しでもうまくいくように農場の経営、運営だけではなくて、付加価値を生み出すために店とか宿泊とか事務所を提供している。事務所とは要するに離れ家で、日本と違って大体イギリスの離れ家は古くて、きれいに修復すると結構いい空間ができることが多く、そこでリモートワークもできるし、場合によっては地元で企業家をするとか、いろんな形があります。それと、我々みたいな企業を誘致できたらやっぱり雇用も生まれます。この辺は少なくとも30人ぐらいかな、日本国内や海外を含めて、会社全体では180人ぐらいなんですよ。これは、弊社にとってはまだ序の口だと思うんです。これから今後、ウォーク・ジャパンやザ・ジャパン・トラベル・カンパニーはどんどん拡大していけると確信しています。

一つ、海外の旅行会社も日本に参入していますが、我々はやり方が全然異なっていて、ストーリー性を大事にしています。それと、やっぱりいろんな要因を取り入れて取り組まないと、不発で終わると思うんですよ。そこでやっぱり民泊、大分県が民泊の発祥地だと思うんですが、その熟練もいるし、できるかできないか、農家

たちの性格など環境が十分かどうか、いろいろあるけど、できるところは多いと思います。個人旅行者は非常に多くて、ただ、民泊をやってもゲストたちに来てもらえなければしょうがないんですよ。だから、PRも非常に重要。それがやっぱり外国、例えば英語圏の各国の人とかインドネシアとか、イギリス人、アメリカ人だけではないんですよ。だから、そういう違った言葉の方のことも意識すればいろんな人に来てもらえると思うんです。

宇佐駅前の温泉施設ですが、その持ち主は、もともと東京で保険会社に勤めていましたが、御両親が温泉施設、宿泊施設を持っていて、彼が後を継ぐために20年余りに戻ってきたんですよ。彼はどうするか、当初は全然経営の能力がなくて、時々私どもに相談に来ていました。ただ、コロナ前も今も満室状態となっています。なぜかという、ブッキングドットコムとか楽天などで、世界中にPRしていたからなんです。その加盟だけで、非常に楽なんですよ。いろんな人たちが来ている。今の技術、携帯だけで、ほぼどこにでも誰でも容易に行けるんです。言葉の異なる国にも楽に行けるんです。

日本は非常に評判がいいんです。憧れの国なんです。九州、その中で大分県はそういう人たちに非常に向いている地域だと私はよく分かってます。だから、やっぱり実例が非常に重要だと思うんです。農家たちを含めてどうするかと悩んでいる方、それを実際に見て、ああそうなんだと。我々は移住者やU・Iターンの方を社員として募集しています。

例えば、弊社の活動をしていて大田に住み着いた人たちもいます。1人が、もともと大分県出身の方でサーファーです。アメリカやオーストラリアを回って、やがて東京に戻ってきて弊社のことを知り、我々がここで頑張っていたから彼は大分県に戻ってきました。大分空港から2、3キロメートルぐらい離れたところにきれいな浜辺や防風林もあって、その中にみどり荘という海の家がありますが、彼が20年余り空き家となっていた海の家を借り、修復してすごく素敵ないい空間ができていて、地元の集落の

方も非常に喜んでいて、その方と奥さんの間に子どもができ、20年ぶりの出来事で地元の人たちが非常に喜んで、防風林の再生にも努めているし、弊社でも仕事をしているし、あとはよりよい空間を提供しているから、日本人も外国人も容易に行けるよねと。彼は英語もうまく、ホームページも日本語、英語どちらもよくできています。一度、海外のメディアが取り上げると、ほかのメディアもそれを読むんです。そうすると、今度は僕らも取材しに行こうとか、そういう話がよくあります。

**クリスティ美保子代表取締役** 私たちの知り合いで他県から移住してきて、自然農法ですごく頑張っている家族が近所にいます。彼らは自然農法でショウガとか里芋とかを作って、それで非常に味のある加工品を作っています。それを、私に関東の友人とかに送るとみんなファンになるような、こだわりの加工品を作っています。

あと、ポールも申したとおり農泊、もともと保育園で、そこで育ってきた子どもたちの思いでいっぱい場所ですが、そこをすごく素敵にアレンジして農泊として、ゲストハウスにして貸し出しています。一体どうやって調べてきたのか、すごく遠くから、この間は名古屋から来たとか、マカオから来た、スペインからも家族で来たよと、情報とかPRという言葉もありましたが、コンビネーションによって彼らは農業一本で本当にやりたいと、すごい汗を流していつも草取りとか頑張っています。やっぱりコンビネーションを見い出して、家族でできる範囲でということで、すごく一生懸命に取り組んでいるので、いくつかの要因のコンビネーションは鍵になるなど。

あと、さきほどこの場で面接があったという話がポールからありましたが、その面接に来てくれた人の話ですが、もともと杵築市出身で、関東に出て長く、どうしてこっちに戻ってきたかという、コロナがあったことと、その影響でそのときの仕事が完全フルリモートになったんですって。フルリモートになった以上、その会社はどこでも住んでいいよとなったので、一大決心で帰ってくるというよりは自然に、仕事

と一緒に帰ってこられるということで帰ってきたということでした。ただ、どこに就職するのかわかなくて、その人が仕事を持ってきてもそれが地域に還元するような流れになるのかは分かりません。今、本当にフルリモートとか、リモート勤務という体制も世の中にはあるので、例えば、家族全員が農業に従事するわけではなく、家族の半分のパートナーが、例えば、本社に月一とかで行ってリモート勤務をしながら生活するとか、農業を営みながらも部分的に副業的にリモートワーカーになるなど、やはりリモートワーク、インターネットの力、そこのコンビネーションを取り入れることが必要です。本当にやりたい農業に100%従事できないと、なかなか天候のこととかいろいろな苦労も当然、農業だからあるとは思いますが、上手なツールの使い分けで、インターネットさえあれば農業を本当にやりたい人が極力農業に従事しながらもバランスのよい生活はできる。そして、その地域の魅力も満喫して、必ずしも都市部じゃなくても、都市部ではできないことをできる可能性はあるなど話を聞いて思いました。

**二ノ宮委員** ありがとうございます。例えば、観光面からいうと、日本ではゴールデンルートに人が集まってしまう。国東市を見たときに音戯の郷とか、自然環境を見たときにすごくいいところなので、いつか大化けするだろうとは思っていたんです。実際に、そこに住みながらやっていただいているので、是非大分県のために頑張ってください。私たちもその地域の環境を、皆さんが来てくれる環境をどうやってつくっていくのか、さきほどいろいろ提案をいただいたので、特別委員会の中で議論していきたいと思えます。

**井上委員長** それでは、クリスティ美保子代表取締役とクリスティ・ポール・ジェラート取締役におかれては、長時間にわたり大変ありがとうございました。

御社が憧れの会社である要因の、給料がよくて働きやすくて、やりがいがある会社の取組は素晴らしいと思えました。また、日本の田舎のどこにでも通じる課題がはっきりしたと思いま

す。この課題を乗り越えるためのキーワードが環境と健康と広域連携ではないかと思います。

本日は、大変貴重な話をありがとうございました。（拍手）

〔参考人退出〕

**井上委員長** 次に、その他です。

この際、この場で共有したい事があれば御発言をお願いします。

〔「なし」と言う者あり〕

**井上委員長** それでは、これで終わりにしたいと思います。

お疲れ様でした。